

【ファシリテーターの活動状況】

第7回地域包括ケア専門職“絆研修②在宅療養中「生活支援」

- 日時 令和4年10月23日(日) 9:15～12:15
- 場所 オンライン(Zoom)研修
- ◎ 研修総参加者 53名 : 8グループ
- ◎ 研修統括ディレクター 足立誠司医師 (国民健康保険 智頭病院)
- ◎ ファシリテーター 11名
- ◎ プレゼンター 3名
- ◎ 研修支援委員等 9名

※令和4年度第7回地域包括ケア専門職による多職種研修会シリーズ②について、完全オンラインで開催しました。ファシリテーター、プレゼンターをはじめ研修支援スタッフが、3回のスタッフ打合せ会で事前準備を行い、研修にのぞみました。



【プレゼンテーション】

◆研修目的・アイスブレイク

(研修統括ディレクター

足立誠司医師:国民健康保険智頭病院)



◆地域包括ケアシステム・在宅医療介護連携推進事業

(植垣望保健師:鳥取市保健所)



◆生活支援とサービス担当者会議・グループワーク①
(曾田淳作業療法士:デイサービスあらいぶ)



◆ACP 等・グループワーク②・まとめ (研修統括ディレクター 足立誠司医師)

【ファシリテーター】

◆ブレイクアウトルームでのグループワークの進行、記録

【スタッフ振り返りより】

良くできたと思うこと、このままやっていこうと思うこと

【ファシリテーター】

- ・どのような意見も否定することなく、参加者が意見を言いやすい雰囲気は作れていた。
- ・グループ討議の内容が浅いまま進んだり、偏った意見ばかりになってしまいそうなときに内容の深掘りを促すなど、適宜介入できた。
- ・記録をみんなで読んで再確認し、発表者の意図が記録されているかの確認ができた。
- ・色々な方々と共通した学びから様々な視点で物事を捉え、ご本人様主体の支援策が直接的・間接的でも関わられるように学びを続けられたらと思っています。 学びの仲間を増やし、現場で共通理解しながら実践活動に活かせたらと思います。

【プレゼンター】

- ・事前に準備し双方向で参加者に意見を求めることができた。
- ・グループワーク後の全体共有の内容と、スライドの内容をつなげることを意識した。
- ・全体で情報共有する際に、前回反省点だった足りない部分を会場に投げかけ、会場からの意見を拾うことができた。

【記録等研修支援】

- ・ファシリテーターさんが、オンラインでの参加が初という事で、事前の打ち合わせで大まかの全体の流れを予め決めていたので、打ち合わせ通りスムーズに進める事ができました。
- ・マスク越しでも伝わるような笑顔、頷きを大きくするなどオンラインでも相手が話をしやすい雰囲気を作れるよう意識しました。
- ・ファシリと協力して進めることができた。
- ・参加者の価値観を共有し、それぞれの意見を尊重しながらグループワークを進めていくよう心掛けることができた。

今後努力を要すること、やり方を変えてみよと思うこと

【ファシリテーター】

- ・発言が早すぎたり、内容が長かったりすると記録が間に合わなかったり、内容の要約が必要になってくるので、そのすり合わせや、記録との時間調整なども必要になってくると感じた
- ・時間に余裕があれば内容を掘り下げられるようにしたい。
- ・グループワーク②は、「延命治療はしてほしくない」と「終末期をどこで過ごすか(家で見てあげたいけど負担が大きいから各種サービスの利用が必要)」という話をほとんどの参加者が同じように話題にしていました。とても大切な話ではあるのですが、少し議論が深まらなかったように感じました。多様な視点からの議論になるように、議論のファシリテートについて工夫が必要だと思いました。
- ・話を広げるための、声かけのタイミングや内容

【プレゼンター】

- ・段階をつけた問いかけを会場に対して行ってみたいです。

【記録等研修支援】

- ・退院前カンファレンスや担当者会議に参加した事がない方へ対して、どうやって実際の会議に近い雰囲気を感じてもらうか。相手の発言に対し否定にならないようにしながらの促しを、もっと自然に上手くできるようになった方が良かったと感じました。
- ・グループワークでももう少し意見交換できるような工夫ができればよいと思う。

研修参加者にとって良かったこと

- ・双方向のスキルを用いることで、積極的な参加されていたと思う。
- ・グループワークと研修だけでなく、全体での情報共有や双方向での問いかけなど充実してきたので、楽しみながら学び体験する機会になって良かったと思います。
- ・グループ人数が丁度一人一役担って頂ける人数であり、それぞれが役割を持ってグループワークに参加できたことがよかったと感じました。司会者の方も不安を感じているようでしたが、ファシリターのフォローもあり、活発な意見交換をすることができました。
- ・たくさんの意見が出て、参加前と参加後には一人一人自身の考えに対し変化が出ているように感じました。一人では思いが馳せられなかったことも他の人・他の職種の意見の中から感じることはとても良い刺激となり学びになるものだと感じます。
- ・「もしもの時の心構え」等普段はあまり考えないことの必要性を真剣に考える機会を持ち、自分以外の多様な考え方があることに気づけたこと。
- ・最初の自己紹介の時にそれぞれの取り組みの紹介や連絡先の交換ができ、今後の業務を進める上でも連携のしやすい関係になれたと感じた。

研修参加者にとって良くなかったこと

- ・やはり、対面がいいですね。対面だと、ディスカッションの後や合間にもっと関係性が作れるのではないかと思います。視線を合わせて頷いたりたり、余談がしにくいというのが難点ですね。

スタッフの感想・意見

- ・グループの人数が少なめであった事もあり、グループワークの時間がゆったりとれて、各参加者の意見を沢山引き出せたと思います。

- ・プレゼンターの皆様の人の伝えるための創意工夫に感心と感謝の気持ちでいっぱいです。うんうんと頷き、笑い、考えました。研修で学んだ、家族の看取りや多職種の「悩み続ける」姿勢を大切にしていきたいと思います。
- ・毎回グループワークのメンバーが変わるので、いろいろな意見から学ぶことができる研修だと思う。
- ・グループワークでは普段関わりの少ない多職種の方の意見を聞くことができ、また新たな視点を学ぶことが出来ました。
- ・事例検討では、それぞれの職種の視点からどのような問題があるのか、考えを知ることができ参考になった。ACPについては、自分の場合と大切な家族の場合にどうしたいのかを考えたが、一言で家族と言っても、親なのか配偶者なのかといった、自分との関係性でどのように感じるかわ変わってくるという意見もあり、確かにその通りだと気づきになった。
- ・役割としては参加者の緊張をほぐし、グループワークを円滑に活発的なものにすると思っていますが、まだまだ難しいと感じています。
- ・研修に慣れたファシリの方を中心に研修を勧めることが出来、多職種連携の基盤となると感じた。

発表用ワークシート① 2G サービス担当者会議開催準備	
現状の問題点	その対策
・本人の思い（不安要素・課題あり） ・妻の介護負担が増えている ・認知症肺炎の繰り返しがある ・家族の意見がまとまっていない。誰のためのサービス？ ・今後サービスに対する経済的負担は？（サービス増、施設入所など） ・地域の方の協力があるのだろうか ・栄養状態低下がある ・認知症肺炎	・担当者会議で不安の対応策を話し合う必要あり ・地域の民生委員の協力を確認する ・週間スケジュールからサービスの見直し ・急変時対応、今後の方針を明確にしたい ・夫婦二人生活でのサービスを検討する ・家族全体の経済支援を確認して検討する（サービス変更に伴うお金の動き説明） ・友人や地域の方の協力体制を確認すると妻の負担減になるかも ・栄養士訪問で嚥下（配食サービスを含めて）、言語聴覚士の介入
●本人・妻・家族の課題を明確にして対策を考えていく必要がある	●本人の思いを実現させながら、妻の介護負担軽減にポイントを絞って考える

